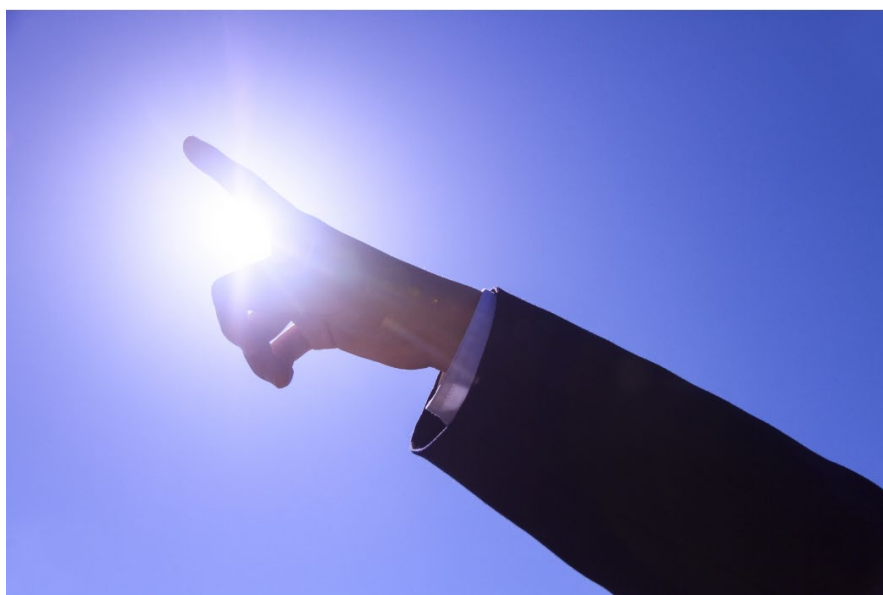


第18回 愛媛クリニカルパス研究会

今、クリニカルパスに求められるもの



日 時：令和4年8月27日（土）13：00～16：20

会 場：四国がんセンター 本館3階 研修室

オンライン開催（ライブ配信：Zoom ウェビナー）

当番世話人：国立病院機構四国がんセンター
病院情報管理部長 羽藤 慎二



ごあいさつ

第18回愛媛クリニカルパス研究会 当番世話人
国立病院機構四国がんセンター 病院情報管理部長 羽藤 慎二

このたび、令和4年8月27日、第18回愛媛クリニカルパス研究会を開催させていただきます。四国がんセンターの羽藤慎二です。2003年より続く伝統ある愛媛クリニカルパス研究会を当番世話人として主催させていただくことを大変光栄に感じております。

さて、2020年初めより全世界に広がったCOVID-19感染は、2年半余りを経てもなお沈静化する見通しが立っておりません。コロナ禍以降、私たちの生活は一変しており、楽しく集う場面の多くが失われ、精神的にも閉塞感が継続しています。

しかし、このような時であっても、学術活動を続け、より質の高い医療を目指してゆく必要があると感じています。本研究会もコロナ禍の中でも活動を継続できるよう検討してまいりました。コロナ禍で唯一の良かった部分であるデジタル化の進歩を活かし、昨年の第17回愛媛クリニカルパス研究会はオンライン形式で行われましたが、県外からの参加者も含めて活発な議論が行われ、大変有意義な研究会となった実績があります。今回も完全オンライン形式とはなりますが、昨年の経験を活かし、ご参加の皆様のパスへのエネルギーが集まれば素晴らしい研究会になると考えています。

一般演題（口演）は11題となりました。多くの応募をいただき感謝しております。ぜひとも活発な討論をよろしくお願いいたします。特別講演は、日本クリニカルパス学会の企画・教育委員会委員長であるトヨタ記念病院の岡本泰岳先生に「パス活動がもたらすもの、パス活動に必要なこと～質向上・負担軽減・教育～」と題して講演いただきます。医療現場における多数の観点からパス活動についてお話しいただく予定であり、実践に活かすことができるパス活動を勉強できる素晴らしい機会と思います。

第18回研究会に参加される皆様が、発表討論や講演から多くの知見を獲得し、充実感を得られることを目標に、当番世話人として誠心誠意、運営させていただきます。多くの皆様のご参加をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、関係各位からいただきました多くのご支援、ご協力に心から感謝いたします。



参加者のみなさまへご案内とお願い

1. 本研究会は、COVID-19 対策として、Zoom ウェビナーを利用したオンライン開催になります。
2. 研究会前日に Zoom から送付されるメール（確認メール）をご確認ください。当日は、送付されたメール内の **ウェビナーに参加** より接続をお願いいたします。
3. Zoom ウェビナーは、**12:40** から接続可能となる予定です。
4. Zoom ウェビナーの Q&A を利用して、一般演題および特別講演時に質問が可能です。Q&A ウィンドウが表示されましたら、質問を入力し送信してください。すべての質問にお答えできかねますことをご了承ください。
5. 研究会終了後、アンケート回答のご協力をお願いいたします。アンケートは、事前登録されたみなさまのメールアドレスに、8/29（月）頃、送信いたします。なお、アンケートは、本冊子の最終ページの QR コードからの取得も可能です。9/16（金）までにご回答いただけますようお願いいたします。



発表者のみなさまへ

1. 一般演題のセッションが開始したら、ビデオを **on**、マイクを **off**（ミュート）にしてください。
2. ご自分の発表時には、マイクを **on**（ミュート解除）にしてご発表ください。
3. 『画面の共有』から発表スライド（ppt）を表示させ、発表を行ってください。



4. 発表後は、**共有の停止** 共有を停止し、マイクを **off**（ミュート）にしてください。

お知らせ

Zoom ウェビナーの基本画面機能については、研究会ホームページでご確認ください

第18回 愛媛クリニカルパス研究会

メインテーマ：今、クリニカルパスに求められるもの

日 時：令和4年8月27日（土） 13:00～16:20

参加費：1,000円

当番世話人：国立病院機構四国がんセンター 病院情報管理部長 羽藤 慎二

* プログラム *

開会のあいさつ 13:00～

国立病院機構四国がんセンター 院長 山下 素弘

一般演題 13:05～14:55 11題

座長：国立病院機構四国がんセンター 病院情報管理部長 羽藤 慎二

国立病院機構四国がんセンター 副看護部長 森下 八重美

休憩 15分 14:55～15:10

特別講演 15:10～16:10

座長：笠岡第一病院 形成外科部長 河村 進

「パス活動がもたらすもの、パス活動に必要なこと
～質向上・負担軽減・教育～」

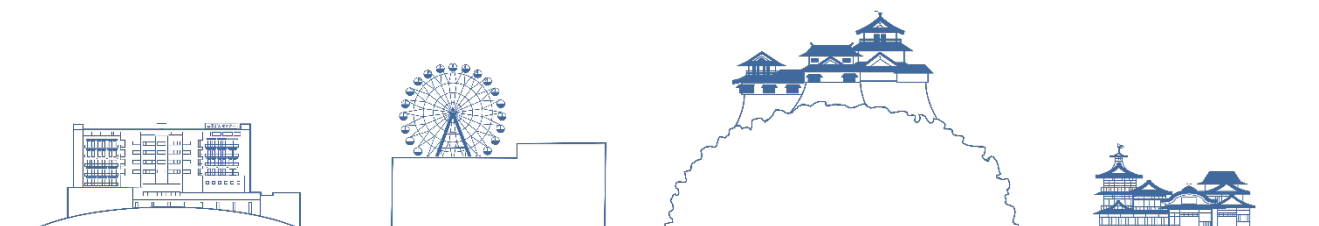
講師：トヨタ記念病院 形成外科部長 岡本 泰岳先生

事務局報告および次回当番世話人あいさつ 16:10～

次回当番世話人施設：愛媛医療センター

閉会のあいさつ 16:15～

当番世話人 国立病院機構四国がんセンター 病院情報管理部長 羽藤 慎二



一般演題（口演） 13:05～14:55

座長：国立病院機構四国がんセンター 病院情報管理部長 羽藤 慎二
国立病院機構四国がんセンター 副看護部長 森下 八重美

1. 小児ショートステイ・レスパイト電子パス導入の病棟での取り組み

愛媛医療センター 看護師 山本 智世、伊藤 満

当院では短期入所者に対して、小児ショートステイ・レスパイトパス（以下ショートステイパスとする）を使用しており昨年、電子パスが承認された。ショートステイパス使用開始にあたり、スタッフが電子化されたショートステイパスが使用できることを目的に、クリニカルパスWGメンバーがリーダーとなり、マニュアル説明時に実際にテスト患者でショートステイパス使用方法を病棟スタッフに周知した。導入後、定期的に、不具合や不明点などスタッフに確認を行っていくつかの問題点が挙げられた。メモ機能の活用ができていない理由として、パス画面を表示させずに入力している現状があり、パス画面を確認することを習慣化した。毎月の評価漏れに対しては、一覧表にし、提示したことでスタッフの意識が高まった。これらの取り組みを行ったなかで、電子パスの導入に伴う問題に対して、適宜チームで話し合う事でスムーズな解決に結びつけることが出来たので報告する。

2. パス作成推進の取り組み

愛媛県立中央病院 看護師 竹田 直弘

当院では、パスの利用促進のため、DPCデータ等をもとに新規で作成するパスの候補をクリニカルパス委員会から提案してきた。提案したパスに対して、事前に現場スタッフの要望等を調査し、各診療科や病棟看護師より作成可能と返事が得られたものについて作成候補とした。しかし、作成のスケジュールは各部署に任されていたため、パス委員会が進捗状況を把握しづらい状況で、年度内に作成されるパスの件数は少なく、年度をまたぐ際には医師や看護師の異動等で引継ぎが十分に行われず、更に作成が滞ることになった。そこで、計画的かつ継続的にパスの作成に取り組むことができるように、作成候補を提案するだけでなく、作成時期が集中しないように年度内で分散させ、パス委員会が定期的に進捗状況を確認できるようにスケジュールを組み、単年度ごとに提案する方法から3か年で作成する長期計画へ変更した。このパス新規作成3か年計画の取り組みについて報告する。

3. コロナ禍でのパス活動

住友別子病院 医療情報技師 乗松 篤

2020年より世界的に大流行した新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」という）は、医療業界に大きな影響を及ぼした。当院でも例外でなくコロナ患者の受入体制構築、委員会活動の制限、私生活においては外食等の自粛など大きな変化が生じた。2021年10月からコロナ患者受入機関として手上げし、2022年6月まで約9か月が経過した。専用病床として5床を準備し、これまでに34名の入院患者を受け入れている。そのすべてにコロナ用パスを適用し、治療に当たっている。

コロナ禍では委員会活動も制限され、院内で意見交換する機会を失った時期もあった。逆にWEBを利用した院外との意見交換がしやすくなるといった好影響もみられた。落ち着きを見せつつも、解消するまでには至らないコロナ。当院のおかれた状況を振り返り、現時点での診療体制、パス活動の変化など、どのように対応しているか報告する。

4. クリニカルパスの現状と課題 ～当院医師へアンケート調査を実施して～

市立宇和島病院 看護師 加賀田 優

当院は、四国の西南地域に位置する急性期病院である。救命救急センターを併設し、病床数435床、昨年はコロナ禍であるが病床稼働率82%、現在医師161名中、正職員医師は、87名在籍している。診療科35科を有しクリニカルパスは129種類計168件数あるが、昨年のパス適応率30.0%、この数字はここ数年ほぼ横ばい状態にある。今年4月には、医師の1/3にあたる27名が異動となり、昨年受けた機能評価機構の指摘からも、診療科によってパス適用に大差があること、通年異動する医師が多い当院の様な病院でパス使用率が低いのは、医師の業務効率からも改善すべき点であると助言を受けた。そこで、当院医師達へクリニカルパスに対するアンケート調査を行った。医師達の思いを知ることで、当院の抱える課題を明らかにし、新規パス作成や適応率向上に繋げる為の手掛かりとしたので報告する。

5. パス委員になって初めて分かりました。入職四年目パス初心者の学び

済生会西条病院 看護師 小笠原 啓、烏谷 力、秋山 直美、石井 博

はじめに：入職四年目の私は、あまり深く考えることなくクリニカルパスを使って業務をしていた。本年度、突然パス委員会に任命され、パソコンが少し得意という理由でコアスタッフに選ばれ、活動している。活動報告：まず、与えられた業務はアウトカムと評価基準が術後経過に適していないパスの改定であった。周手術期の経過を熟知してなければできない作業であり、自己学習が必要であった。頭を悩ます作業でもあったが自身のスキルアップに繋がった。バリエーション集計、分析も行った。手間がかかる集計の必要性に疑問を持ちながら作業をしたが、パスの改善点を発見するためには必須であることを学んだ。まとめ：パスに深く関わることで、自己のスキルアップに繋がった。パスをただ利用するのと、知識を持って利用するのでは大きな違いがあることを学んだ。後輩たちに教授していきたい。

6. 看護部パス委員会教育活動

住友別子病院 看護師 小根国 ユカリ

当院看護部パス委員会では、クリニカルパスの知識を高め、正しいパスの活用を推進するとともに、業務の効率化を図れるよう委員会活動を行っている。主な取り組みとして、病棟スタッフ対象に、クリニカルパスの正しい評価方法の教育や新人看護師へのクリニカルパスの基本編、応用編の指導を行っている。また、毎月未評価調査を行いスタッフへ結果をフィードバックしている。もともと、集合研修を行っていたが、病棟スタッフの負担や現状を踏まえ、集合研修ではなく、個々での学習が行える環境を整えた。集合研修時は、自部署でのパスの未評価や未実施件数が減少せず研修の成果がみられなかったが、自分の都合の良い時間に研修ができるように視聴動画を作成、自部署で学習できるようにした事で、研修前後の理解度調査では、わずかではあるが上昇し、それに伴い未評価件数が減少された。それらの主な取り組みとその成果についてここに報告する。

7. クリニカルパスワーキンググループにおける学習会の取り組みについて

愛媛医療センター 看護師 青木 芙美

当院では2021年度に診療録が電子化され、紙で運用していたパスの電子化に向けて取り組みを行った。移行期間中、移行後に必要な全体研修がコロナ禍において開催できず、各部署で指導的役割を担う看護部クリニカルパスワーキンググループ（以下WG）のメンバーの交代が相次ぎWGのメンバーの知識不足を実感した。そこで、WG内でメンバーに対して基礎的な学習会を行うことで知識の底上げを図った。WGメンバーがパスの電子化を進めていったが、WGメンバーだけでは移行や移行後のパスの運用が難しく、多職種（特に医師やドクターアシスタント）の協力が不可欠であった。そのため多職種に向けたパスの電子化について学習会を実施することで連携を強化することができたと感じたので報告する。

8. 人材を育てよう。当院の取り組み

済生会西条病院 看護師 烏谷 力

背景：クリニカルパス委員は各病棟に看護師3名が所属しているが、人事異動の度に委員会スタッフが入れ替わるため、パスを熟知したスタッフが育たない。目的：委員会を担える人材を育てる。方法：各部署から1名選手し、コアチームを結成。パスの基礎知識、委員会の方針を説明して理解を得た上で、院内初の本格的なデータ収集・分析作業を行った。アンケートで今回のトライアルを評価した。結果：全員がPDCAサイクルを回すことに理解を得た。各自、データ収集は勤務時間外に行っていた。チームで行う分析作業も時間外であり、負担となっていたことがわかった。メンバーは固定よりも、交代制がよいという意見が多かった。結語：トライアルは一定の成果を得た。個々の負担を軽減できる方法を検討しなければ、継続した人材育成は難しいのかもしれない。

9. 腹腔鏡下鼠経ヘルニア修復術におけるバリエーション分析とアウトカム評価について

松山市民病院 看護師 川崎 裕美、日朝 綾、川本 美加

当院では2009年にクリニカルパス（以下パス）委員会を設立し、2022年6月現在、108種類のパスを運用している。バリエーション分析は毎月、パスリンクナースが主体として実施しているが、無作為に2種類選出しているため計画的なバリエーション評価には至っていない。2019年9月に作成・運用を開始した腹腔鏡下鼠経ヘルニア修復術パスは、2022年5月末までで137件運用されている。今回運用開始から約3年が経過したため、バリエーション・アウトカム分析を行った。分析の結果、薬剤の変更や看護ケアの修正を行った。また、診療情報管理士と共にベンチマークの検証を行い、パスの妥当性を確認できたため報告する。今後も、患者サービスの向上や標準的な医療提供の推進に向けて、他職種と共同しながらバリエーション分析やアウトカム評価を実施していきたい。

10. クリニカルパス推進委員会における、パス活動の活性化に向けて

松山赤十字病院 看護師 後藤 佳子

昨年度、クリニカルパス推進委員会（以下、委員会）では、パス分析実施に向け、バリエーションデータを収集した。その結果、①アウトカム・判断指標の設定が適切でない②バリエーション件数が少ない③アウトカムが正しく評価されていない、④多職種が関与するアウトカム・タスクが設定されていない、という現状が明らかとなったため、パス分析には至らなかった。これらの課題解決のために、アウトカム評価方法の変更と強化及び基準の改訂と周知、パス担当者を中心にアウトカムを見直し、パス監査試行を行った。今年度の委員会活動では、さらなるパス活動の活性化に向け、パス監査・バリエーション分析の本格的な実施と、パス教育体制の構築・多職種へのパス活動参画推進など、活動及び予定について報告する。

11. アウトカム誤評価について

四国がんセンター 看護師 片山 洋子

当院ではパス適用患者のアウトカム評価は、1日1回以上看護師が行っている。2015年7月よりアウトカム評価率をパス推進委員会にて報告し、アウトカム未評価率は12.0%から3.0%へ低下した。しかし、観察した結果値に基づいて評価ができていないアウトカム評価（以下、誤評価）が多く見られた。そこで、2021年4月より誤評価の調査と報告を開始した。調査は、アウトカム評価結果と観察した結果値を照らし合わせながら行った。2021年4月の誤評価は1325件（6.0%）であった。特に、疼痛の評価、食事摂取量の評価、バイタルサインの評価などに誤評価が多く見られた。毎月結果報告と、アウトカム評価時の注意点やバリエーション記録の書き方の説明を行うことで、誤評価件数は681件（3.6%）まで低下した。誤評価の調査と報告を行うことで、看護師は結果値に基づいて適切なアウトカム評価を実施できるようになった。

特別講演 15:10~16:10

座長：笠岡第一病院 形成外科部長 河村 進

「パス活動がもたらすもの、パス活動に必要なこと

～質向上・負担軽減・教育～」

講師：トヨタ記念病院 形成外科部長

岡本 泰岳 先生

愛媛クリニカルパス研究会で講演させていただくのは、今回で3回目となります。誠に光栄に存じます。1回目は第3回（2005）研究会で「創傷管理とクリニカルパス」と題して、形成外科医の観点から。そして2回目は第11回（2014）研究会で「アウトカム志向と見える化が決めて」と題して、トヨタ記念病院パス委員会委員長の観点からお話ししました。今回は、日本クリニカルパス学会内の企画・教育委員会委員長の観点からお話ししたいと思います。パスが病院に導入されることにより 医療現場では実にさまざまな効果がもたらされると言われています。チーム医療が推進し、インフォームドコンセントの充実が図られ患者参加型医療の提供が可能となります。質保証、質改善を通して、医療安全、リスク管理、業務改善・効率化が図られます。また 経営戦略としての業務時間管理、コスト管理にも有用です。さらには 経験の浅い医療スタッフへの教育ツールにもなり得ます。しかしこれらは、パス医療の本質を理解し、パスというツールを正しく利活用するからこそ得られる効果と考えます。キーワードは、「アウトカム志向」「標準化」「SDCA サイクル」「PDCA サイクル」「業務負担軽減」「院内教育」です。「パス活動がもたらすもの、パス活動に必要なこと」を再確認してみましょう。



岡本 泰岳 (おかもと やすたか)

1988年：藤田保健衛生大学（現、藤田医科大学）医学部卒業
名古屋第一赤十字病院、藤田保健衛生大学病院、国立埼玉病院、
群馬県立がんセンター、慶応義塾大学伊勢慶応病院、勤務
1997年：トヨタ記念病院形成外科医長
2001年：同形成外科部長
2004年：同診療情報支援グループ長兼任
（旧医療情報マネジメントグループ）

学会活動：

日本クリニカルパス学会 理事 パス上級指導医

*クリニカルパス学会では、企画・教育委員会委員長、学術出版委員を務めています
愛知クリニカルパス研究会 代表世話人

院内活動：パス運営委員会 診療運営委員会 IT活用委員会

論文・著書（クリニカルパス関連）

1. 岡本泰岳：第1章 クリニカルパス導入の意義と本質。基礎から学ぶ クリニカルパス実践テキスト第2版 監修 日本クリニカルパス学会学術・出版委員会，1-11，医学書院，東京，2021
2. 岡本泰岳：標準化。クリニカルパス用語解説集第2版（日本クリニカルパス学会監修），47-50，2019
3. 岡本泰岳：クリニカルインディケータとクリティカルインディケータの利活用。日本クリニカルパス学会誌 21(1)：27-30，2019
4. 岡本泰岳：これならやれる、できるかも！ 他施設に学ぶパス活動推進の工夫とアイデア。日本クリニカルパス学会誌 15(3)：215-218，2013
5. 岡本泰岳：第5章 クリニカルパスの見直しとバリエーション分析。基礎から学ぶ クリニカルパス実践テキスト 監修 日本クリニカルパス学会学術委員会，65-84，医学書院，東京，2012
6. 岡本泰岳：質評価指標を自施設の質向上活動にいかにか活かすか。日本クリニカルパス学会誌 14(2)：149-151，2012
7. 岡本泰岳：地域連携クリティカルパスの作成と運用の意義。現代医学・58(2)・383-389，2010

愛媛クリニカルパス研究会 会則

第1条 名称

本会は愛媛クリニカルパス研究会と称する。

第2条 目的

本会はクリニカルパスを使用した医療、つまりEBMを取り入れた医療の標準化、チーム医療、患者様中心の医療の実施を普及、啓発を目的とするものである。

第3条 構成

1. 会員：原則として愛媛県内の医療従事者で本会の目的に賛同するものとする。
2. 世話人：会員の中から若干名の世話人を選出し、その中から代表世話人を選出する。
3. 会計監事：世話人の中から選出する。

第4条 事業および運営

1. 研究会などの開催：本会の目的を達成するために原則として年1回の研究会および本会が必要と認める事業を開催する。
2. 世話人会：世話人会を南予、中予、東予の3ブロック構成で組織し、本会の運営にあたる。
3. 当番世話人：本会開催のための当番世話人は3ブロックの持ち回りとする
4. 会の開催にあたっては各ブロック内で決定した施設が行う。
5. 会計監事：本会の財務を監査するものとする。
6. 主旨に賛同する、団体、企業との共催は、世話人会の承認を得て、開催する事ができる。
7. 運営費として各世話人施設から施設年会費を徴収する。

第5条 事務局

本研究会の事務局は独立行政法人国立病院機構四国がんセンターに置く。

事務局は世話人会の決定で変更できる。

会計は事務局が代行する。

第6条 参加費

会への参加者からは規程の額を徴収する。

参加費は会場費、通信費などに使用するものとする。

第7条 会則改正

本会則の変更、会計監事の変更、事務局の変更、世話人の変更・追加は世話人会の決定で行うことができる。

付則

本会則は2004年3月20日より施行する

改訂：2007年7月7日

2015年8月29日

別紙 Ⅰ

1. 第4条 7については、2万円/年とする。
2. 第6条 参加費については、各会の当番世話人が決定する。

世話人施設一覧

NO	施設名	郵便番号	住所	電話番号
1	松山赤十字病院	790-8524	松山市文京町1番地	089-924-1111
2	愛媛県立中央病院	790-0024	松山市春日町83番地	089-947-1111
3	道後温泉病院	790-0858	松山市道後姫塚乙21-21	089-933-5131
4	済生会今治病院	799-1502	今治市喜田村7丁目1-6	0898-47-2500
5	住友別子病院	792-8543	新居浜市王子町3-1	0897-37-7111
6	済生会西条病院	793-0027	西条市朔日市269-1	0897-55-5100
7	愛媛県立南宇和病院	798-4131	南宇和郡愛南町城辺甲2433番地1	0895-72-1231
8	愛媛大学医学部附属病院	791-0295	東温市志津川454	089-964-5111
9	愛媛医療センター	791-0281	東温市横河原366	089-964-2411
10	市立宇和島病院	798-8510	宇和島市御殿町1-1	0895-25-1111
11	十全総合病院	792-8586	新居浜市北新町1-5	0897-33-1818
12	西条中央病院	793-0027	西条市朔日市804	0897-56-0300
13	愛媛県立新居浜病院	792-0042	新居浜市本郷3丁目1-1	0897-43-6161
14	HITTO病院	799-0121	四国中央市上分町788-1	0896-58-2222
15	愛媛労災病院	792-8550	新居浜市南小松原町13-27	0897-33-6191
16	愛媛県立今治病院	794-0006	今治市石井町4丁目5-5	0898-32-7111
17	済生会松山病院	791-8026	松山市山西町880-2	089-951-6111
18	松山市民病院	790-0067	松山市大手町2丁目6-5	089-943-1151
19	四国中央病院	799-0193	四国中央市川之江町2233	0896-58-3515
20	四国がんセンター	791-0280	松山市南梅本町甲160	089-999-1111

研究会参加後アンケートはこちらから



<https://forms.gle/i99TnA2cjNS3kExk7>

